

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

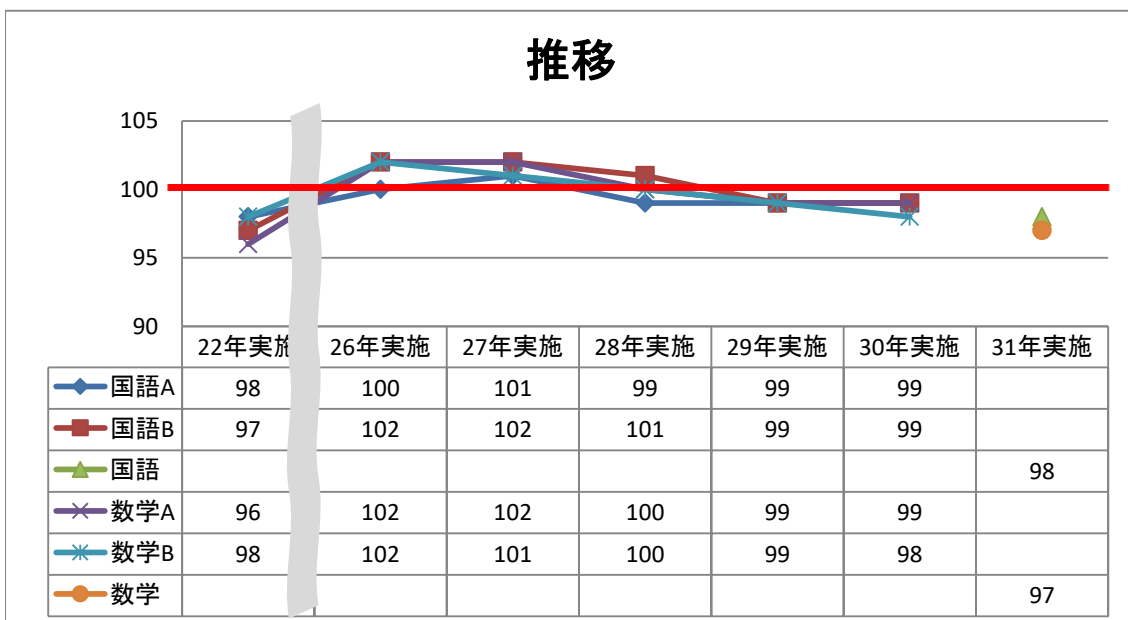
すべての教科で全国平均(標準化得点100)を上回る。

3.指標に向けての取組

短期・中期指標に向けて、学校目標の具現化を目指した取り組みから「自らの学ぶ意欲の向上と学力の向上」を目指す。また、昨年同様に基礎・基本的な知識・技能の取得から思考力・判断力・表現力のさらなる育成を図る。
 そのために各教科等において、基礎・基本的な内容の反復学習を実施し、言語活動を充実させる授業改善を進めると共に教科横断的な学習内容を強化する。
 また、学力テストの分析による3つの課題「国語・数学のB問題ができていない」「日常生活に関連づけて考える問題ができていない」「基本的な知識を問う問題でも思考・原理に基づく理解がなく、身につけていない」等の課題に対して焦点化・重点化した問題を授業や定期テスト、週末課題として補完する取り組みを展開する。
 家庭学習の時間を引き続き1・2年生90分間、3年生120分以上と設定して、9割以上の生徒が目標達成するように取り組んでいく。また、週末の学習時間の増加を目指す。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	98	97
嘉麻市	97	95
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

平成31年度のテスト結果は、目標としていた標準化得点全国平均100より国語で－2p、数学で－3pの結果だった。

・国語科:書く問題に関して「解答しなかったり、途中であきらめたりした」と解答した生徒が30%、「全く解答しなかった」が6%と、書く問題に取り組めていない生徒が約4割いる。また、記述問題については、生徒の記述内容を分析すると、何を問うているのかなどの問題理解ができておらず、結果不十分に解答している生徒が多い。これは、言語活動を充実させる授業改善が不十分であったと考える。

・数学科:問題を読解する力が弱く、答える内容を十分に理解せずに問題を解いている。または理解でいまま無解答で終わらせている。今回のような思考力を問う活用問題に慣れていないことが考えられ、授業での取り組みが必要である。

・家庭学習は、1時間未満の学習時間の生徒が多く(39.9%)、目標としていた3年生で120分の学習時間には約4割の生徒が達していない。学習内容の定着に必要な家庭学習が十分にできていないと考えられる。

6.各学校における今後の取組

【基礎・基本の学習内容の定着】

・各教科で、授業中の小テスト(5分間テスト等)などをおこなうことで、定期的に復習する時間を確保する。
・週末課題(ワーク等の活用)を計画的にすすめることで、家庭で復習する内容を明確にしながら取り組んでいく。

【思考力を問う問題への対応】

・全教科で記述問題への苦手意識、問題理解の不十分さ、途中で解答をあきらめることによる無解答が見られる。単元ごとの授業内容を見直し、「思考する時間」「理解したことをまとめる時間」を確保しながら、現在、授業改善で取り組んでいる「かく活動」をすすめていく。

・思考を問う問題形式に慣れるために、フォローアップシートの活用、日頃の授業内容の見直し、定期考査の問題作成の見直しを行う。

【家庭学習の見直し】

・現在おこなっている自学ノートの取り組みが適切な内容なのか、生徒にとって効果があるのかを検証し、方法の見直しをおこなう。

・家庭で1～2時間は取り組めるような家庭学習の質・量を考え、家庭との協力をすすめる。

【その他】

・自尊感情の低さ、何か最期までやり遂げた達成感の低さ、将来の夢を持っているかなど質問用紙から学力の土台となる部分の課題が見られる。キャリア教育や総合的な学習の時間の内容づくりを通して、相互に認め評価しあえる人間関係づくりなど学校総体で見直していく。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 「思考力・表現力等を問う」定期考査の実施や授業評価の取組に対する指導助言を行う。
- 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。